

作品情報

タイプ
長編小説

英国での初出
《リピンコッツ》1890年2月号

単行本の出版
『四つの署名』スペンサー・ブラケット社、1890年10月

主な登場人物

メアリ・モースタン ガヴァネス 若い家庭教師。

モースタン大尉 メアリの父。

サディアス・ショルター イングランド人紳士。

バーソロミュー・ショルター サディアスの双子の兄。

マクマード ポンディシェリ荘のガードマン、門番。

ラル・ラオ ポンディシェリ荘のインド人執事。

バーンストーン夫人 ポンディシェリ荘の家政婦。

ショルター少佐 サディアスとバーソロミューの父。

ジョナサン・スモール 英国人。

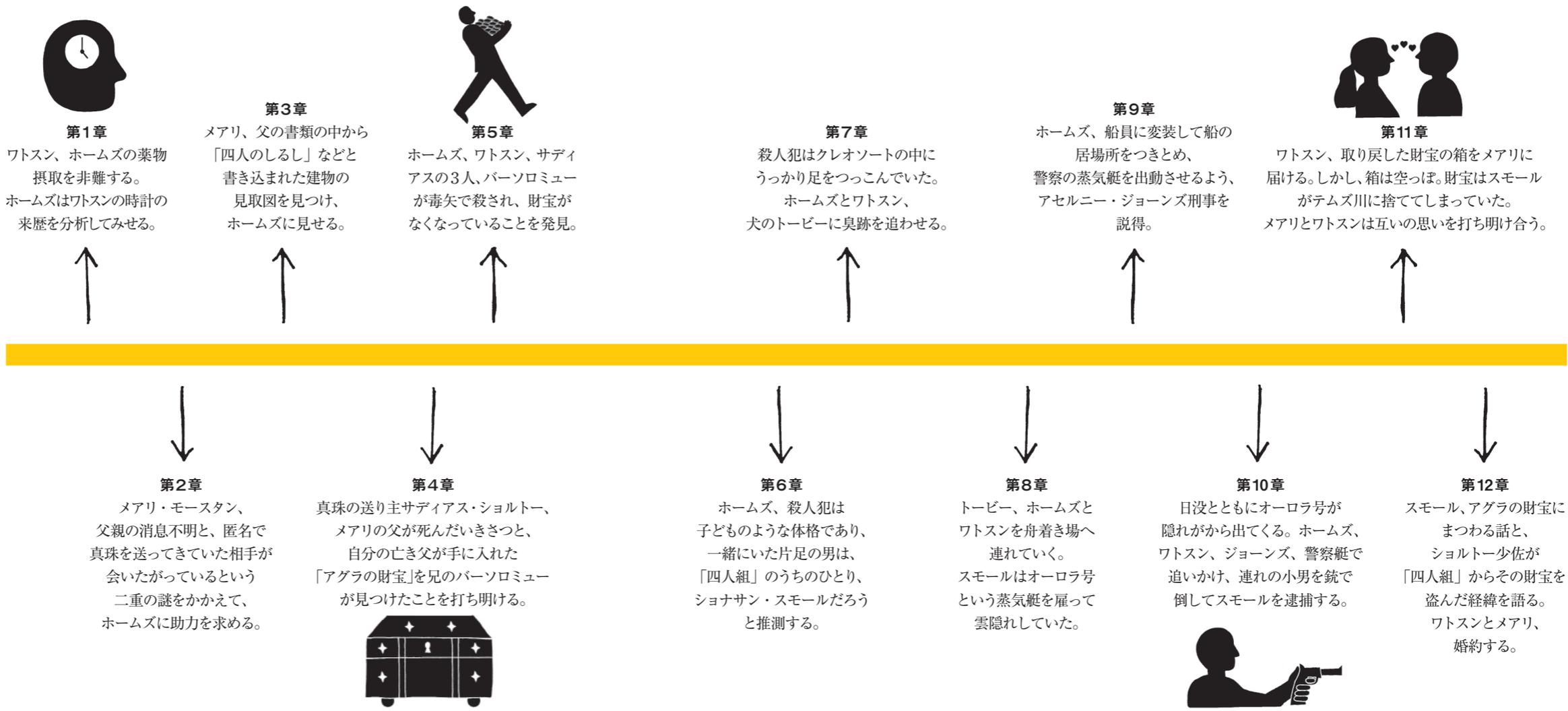
マホメット・シン、アブドゥラー・カーン、ドスト・アクバル ジョナサン・スモールの仲間。

トンガ アンダマン諸島の現地人。

アセルニー・ジョーンズ スコットランド・ヤードの刑事。

モーディケアイ・スミス 蒸気艇オーロラ号の持ち主。

セシル・フォレスター夫人 メアリ・モースタンの雇い主。



1888年、打ち込める仕事のないホームズはコカインに救いを求め、ワトソンに叱咤される。だが、依頼人メアリ・モースタンの訪問とともに、やっと解決すべき謎がもたらされた。メアリの父モースタン大尉はインド駐留の軍隊にいたが、ロンドンに一時帰国した10年前に消息を絶った。当時メアリは父の友人ショルター少佐に連絡してみたが、帰国していたことも知らないと言われた。その4年後から、彼女のもとに毎年ひと粒の真珠が届くようになり、今度は謎の送り主が会いたいと言ってきているのだ。

メアリは、父の財布の中から見つけた紙をホームズに見せる。四つの十字を横につなげたような絵文字と、「四人のしるし——ジョナサン・スモール、マホメット・シン、アブドゥラー・カーン、ドスト・アクバル」という言葉が書かれていた。その晩、ホームズとワトソンはメアリに付き添って真珠の送り主に会う。それはショルター少佐の息子、サディアスだった。少佐は死の床で、モースタン大尉が失踪当夜に訪ねてきたのだが、口論の最中に事故死してしまったので死体を処分した、と告白したのだという。少佐と大

尉は箱いっぱいの「アグラの財宝」を手に入れていたが、双子の息子サディアスとバーソロミューに財宝の隠し場所を明かす前に、少佐は息絶えてしまう。このときからサディアスが匿名の贈りものを届けはじめたのだ。サディアスはバーソロミューが実家で財宝の箱を見つけたとホームズたちに教える。しかし一行が到着してみると、バーソロミューは毒矢で殺され、財宝はなくなっていた。ホームズは、現場にいた義足の男はスモールであり、その連れが殺人犯だと推理する。スコットランド・ヤ

ドのアセルニー・ジョーンズ刑事がサディアスを逮捕する一方、ホームズはスモールがオーロラ号という蒸気艇を雇って潜伏していることをつきとめる。その夜、オーロラ号が隠れがを出てテムズ河を下りはじめると、ホームズたちの蒸気艇が追跡を始める。「野蛮人」が吹き矢で攻撃してくるが、応戦した銃弾に倒れて船から落ちる。ついにスモールに追いついたものの、財宝はテムズ川に沈められていた。スモールの話では、1857年のインド大暴動の頃、スモール、シン、カーン、アクバルの4人は人を殺

して手に入れた財宝をアグラの砦に隠したが、逮捕され、流刑となってアンダマン諸島へ移された。その後、現地軍にいたショルター少佐とモースタン大尉に、財宝の分け前の代わりに自由の身にしてもらったのだが、ショルターは財宝を持ち逃げしてしまう。スモールは復讐を誓い、現地人（例の「野蛮人」）を仲間にして島を脱走し、ショルターを捜し出したのだ。物語は、ワトソンがメアリとの婚約をホームズに知らせる明るいシーンで幕を下ろす。■